

下記の逐語は、いわゆる「非指示療法時代」のロジャーズの実際のカウンセリングです。
ロジャーズになったつもりで、空欄にあなたの考える応答を入れてみましょう。

ロジャーズ：もっとくわしくお話しただけませんか。なぜ、どんなふうに、ほんとうにもう死んでしまったほうが良いと思うほど、追いつめられてしまうのか。

ブライアン：ええ。その感覚をもっと正確に言葉にできるかどうかわかりませんが。それは、とても強烈な痛々しい重さで、まるで斧が腹部全体を推しているというか、押しつけているような感じなんです。だいたいどの場所かもわかるんですけど。それが急激にぼくを圧迫してくるような感じなんです。そしてそれは、ぼくのダイナミックなエネルギーの源のところまで下りていってしまうので、どんな分野でどんな努力をしても、いつもそこでブロックされてしまうんです。

ロジャーズ：

ブライアン：ええ、そうなんです。そして身体でも同じことが起きるんです。歩いていて、その悪い感じが襲ってきた時、ぼくは背中を曲げて、お腹が痛い時のような感じで歩くんです。ぼくは実際腹痛をよく起こすんですが、この時は心理的にそんな感じになってしまうんです。

ロジャーズ：

ブライアン：そうなんです。それはちょうど自分の中に文字通り、斧を持っているような感じなんです。僕のエネルギーの核になるところに斧があるような感じ。そのためにぼくのエネルギーは、痛々しいばかりにブロックされ、抑えこまれているんです。それは、ぼくの深いところに突き刺さっている。けれどだからこそ逆に、それから解き放たれると、深いエネルギーの流れを感じることができるわけなんです。

ロジャーズ：

ブライアン：ええええ、そうなんです。とってもダイナミックなんです。頭の回転も速くなるし、すべてが調子よくいきます。やることなすこと、うまくいくっていうか。

ロジャーズ：

ブライアン：はい、そうなんです。いつもそんなふうでいたいんです。でも、なぜだかわからないんですが、そんなふうではいられないんです。全て心理的なことだっていうことはわかっているからそれをつきとめたいんですけど。

答えは 4/21 に、<https://wp.me/p85CuY-1NJ> にアップします。